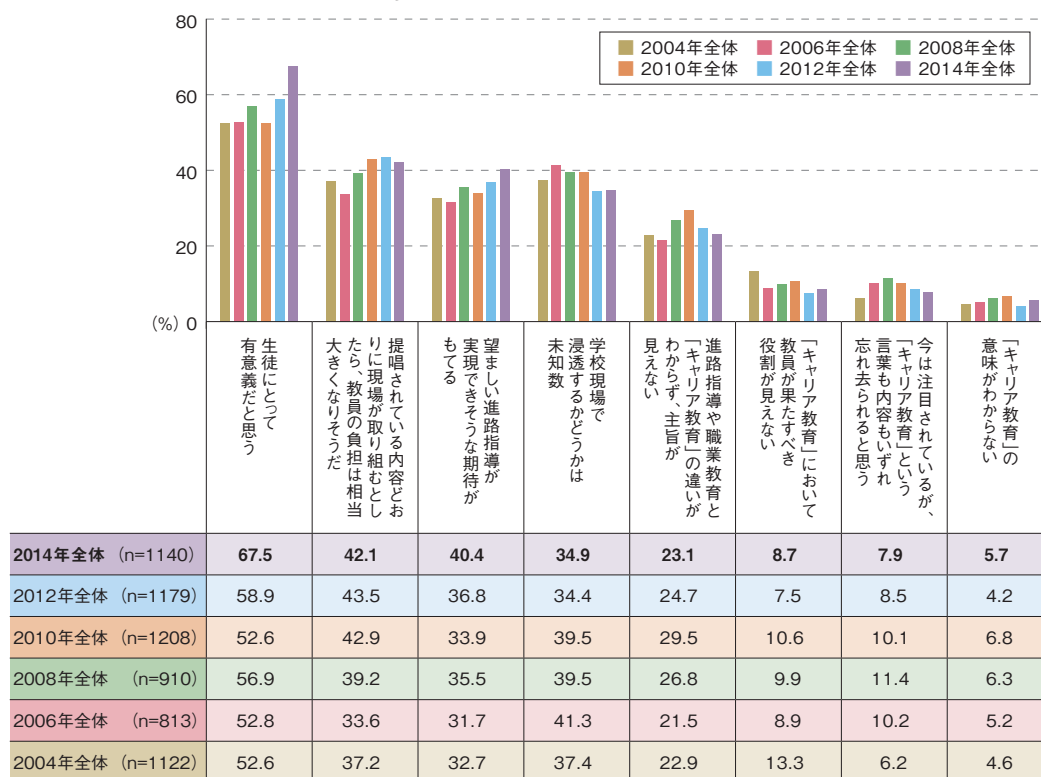


効果を期待する
ポジティブな意見が増加

進路指導主事を中心とする回答者はキャリア教育に対してどのような考えを持っているのか。自分の考えに近いものをすべて選んでもらったところ（図表1）、「生徒にとつて有意義だと思う」68%が突出して1位、10年前からは約15ポイントアップしている。3位の「望ましい進路指導が実現できそうな期待がもてる」40%とともに肯定的な意見が増した。

一方、2位の「提唱されている内容どおりに現場が取り組むとしたら、教員の負担は相当大きくなりそうだ」42%は前回より微減。「学校現場で浸透するかどうかは未知数」35%、「進路指導や職業教育と「キャリア教育」の違いがわからず、主旨が見えない」23%はともに前回から横ばいだが経年では全体に否定的・懐疑的な態度は減少傾向。

図表1 キャリア教育についてどう考えているか（全体／複数回答）



※「2014年 全体」の降順

○成果が漠然としている。キャリア教育の推進→学習意欲の向上→…その先にあるものは結局大学への進学数。ここにキャリア教育の意味を見出しがち。（北海道/道立/普通科）

キャリア教育非実施校

○教科指導とうまく結び付けられないと、浸透するか難しいかも（沖縄県/県立/普通科）

■進路指導や職業教育と「キャリア教育」の違いがわからず、主旨が見えない

キャリア教育実施校

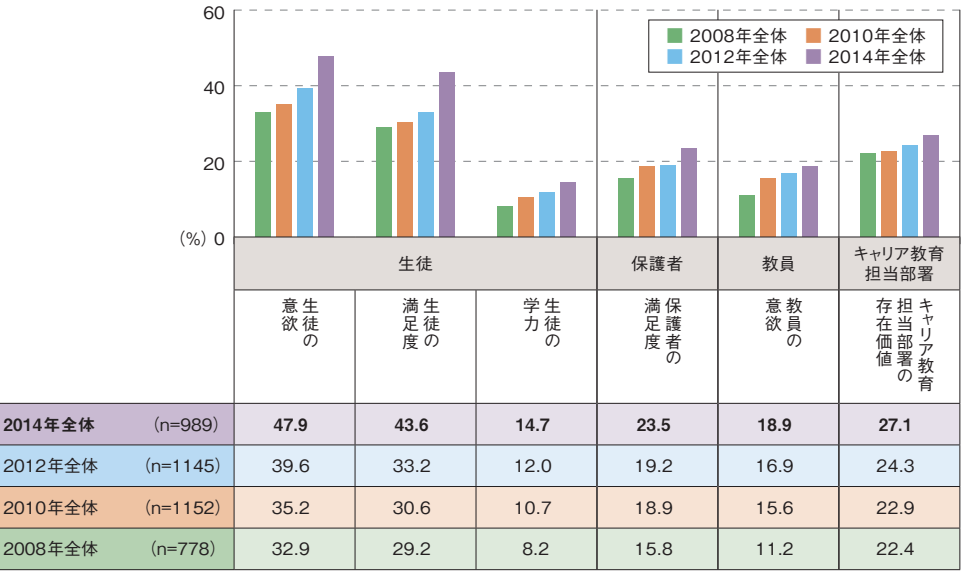
○学校教育のそれぞれの活動が将来「自立をして生きていくために必要な能力や態度を育てる教育」であり、広い意味で従来の学校の活動と何ら変わらないと思う。（佐賀県/県立/普通科）

フリーコメント1を見ると「生徒にとって有意義」「望ましい進路指導ができそう」と考える理由として、将来について「生徒たちが自ら考える」目標が具体的になるなど、現場でキャリア教育の効果が実感されつつある状況が見えてくる。

実施校では生徒の意欲と満足度が大幅増加

では、キャリア教育実施校では、キャリア教育の推進によってどのような効果があったのか。キャリア教育実施校（調査対象全体の87%）に、生徒・保護者・学校における意欲や満足度などの変化をたずねた（図表2）ところ、08年以降、全項目で「増した」の割合が増加している。特に、「生徒の満足度」が前回より10ポイント、「生徒の意欲」は08年から15ポイント増加しており、生徒の充実感・達成感といった手ごたえを感じている状況が伝わってくる。生徒はもとより、保護者の「満足度」も増しているという実感が、「キャリア教育担当者の価値」を高め、さらには「教員の意欲」の向上にも結びつく好循環をもたらしているようである。

図表 2 キャリア教育による学校や生徒の変容度：「増した」回答（※キャリア教育実施校／各単一回答）



※カテゴリーごと「2014年 全体」の降順 ※キャリア教育実施／非実施校は2014年より実施の有無を直接聞く設問によって分けている

フリーコメント 1

キャリア教育についての考えとそう考える理由

■生徒にとって有意義だと思う

キャリア教育実施校

○何のために学習するのか、大学に進学するのかの意義と、社会に出て活躍するために必要な資質、能力を、キャリア教育を通して生徒に教えることで将来の目標、またそれに向け頑張ろうというモチベーションが上がり、学習意欲の向上に貢献できる。（栃木県／県立／普通科）

キャリア教育非実施校

○生徒は、「自分のことを自分が一番わかっているわけではない」ということに気づき、将来の可能性を広く知り、その中から選択していくべきだと考えるから。（山形県／県立／普通科）

■提唱されている内容どおりに現場が取り組むとしたら、教員の負担は大きくなりそうだ

キャリア教育実施校

○キャリア教育は幅が広いため教員がすべてを担うのは大変である。専門のキャリアティーチャーやカウンセラー、アドバイザー、チューターなど社会全体とかかわりながら実施することが大切だと思います。（兵庫県／市立／普通科）

キャリア教育非実施校

○本校のように、就職する生徒が多岐にわたり、かつ200名を超える中で、一人ひとりを見つめて指導する限界を感じている。（北海道／道立／専門高校）

■望ましい進路指導が実現できそうな期待がもてる

キャリア教育実施校

○従来の「いずれは役に立つから」とか、「入試に必要なだから」で片付けられていた基礎教育と、社会を結び付けた意義は大きいと感じている。（岩手県／県立／普通科）

○今までの進路指導は出口指導が中心であったが、キャリア教育の立場に立ち、生徒一人ひとりの人生をいかに豊かにするかを考えると、進路選択の幅が広がり、より良い進路指導ができる。（岐阜県／県立／専門高校）

キャリア教育非実施校

○個人による自律的なキャリア開発の時代が来ている。それに対応するためには高校、大学を通じてアクティブラーナーを育て、自ら行動できる人間を育てることが肝要だ。（新潟県／県立／普通科）

■学校現場で浸透するかどうかは未知数

キャリア教育実施校

2 キャリア教育は学校全体で教科も含めた日常型へ

学校全体で取り組み 担当部署の設置が進む

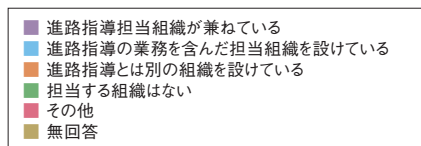
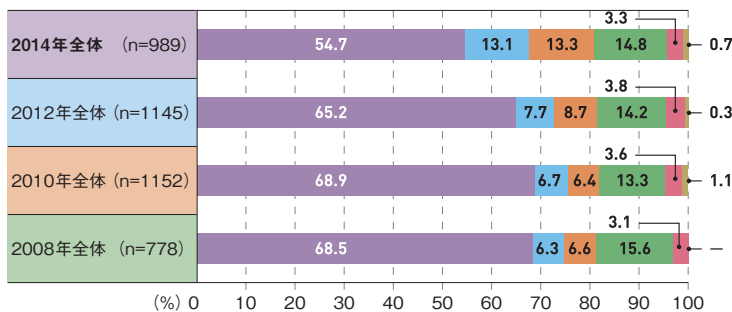
キャリア教育実施校に取り組み単位をたずねたところ(図表3)、最多は「学校全体で取り組んでいる」73%。ついで「学校全体ではなく学年で取り組んでいる」20%。「学校や学年での取り組みではなく教員個人で取り組んでいる」は3%とわずかであり、学校全体や学年で組織的に取り組むようになっていくことがわかる。

また、キャリア教育の担当部署の設置状況(図表4)の最多は、「進路指導担当組織が兼ねている」55%だが前回より11ポイント減少。「進路指導の業務を含んだ担当組織を設けている」「進路指導とは別の組織を設けている」「いずれも13%」がともに前回より5ポイント増加、担当組織の設置が進んでいるようだ。

総合学習やLHR以外にも
日常の教科・部活や行事でも実施
キャリア教育の実施時間(図表5)

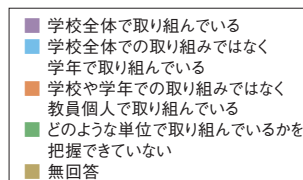
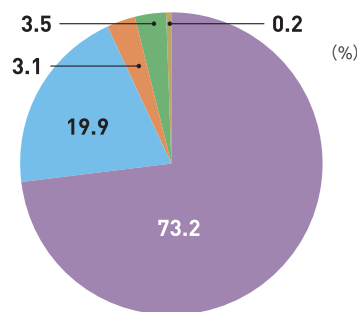
図表4 キャリア教育の担当部署の設置状況

(キャリア教育実施校／単一回答)

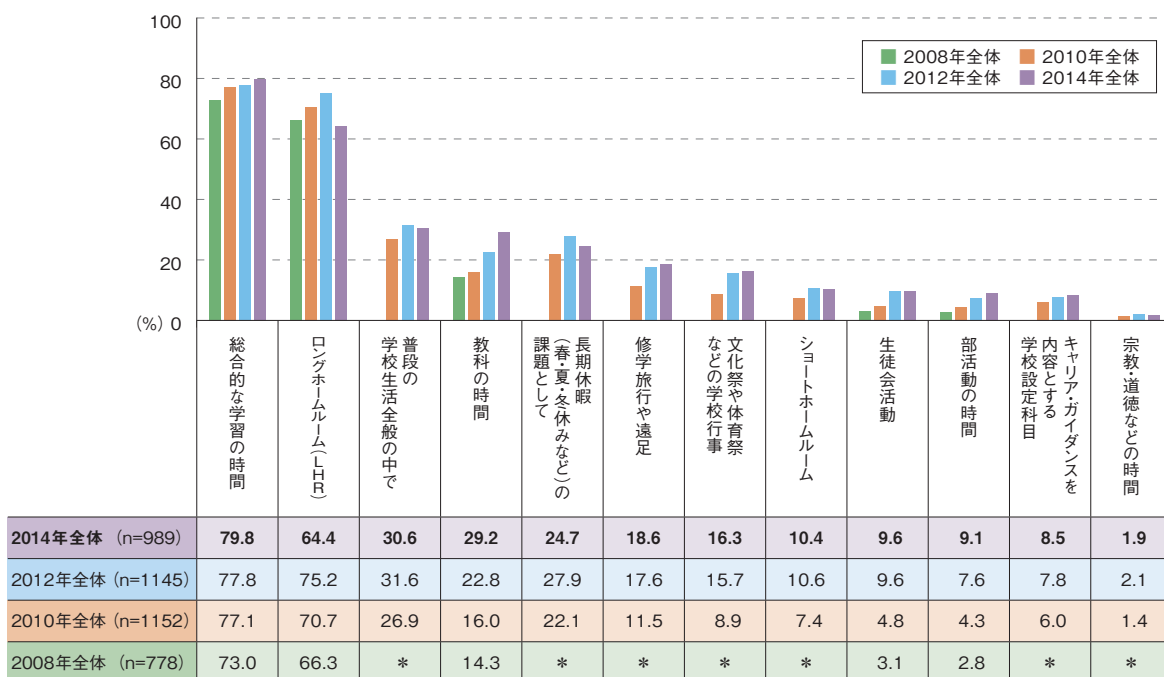


図表3 キャリア教育の実施体制

(キャリア教育実施校／単一回答) (n=989)



図表5 キャリア教育の実施時間 (キャリア教育実施校／複数回答)



※「2014年 全体」の降順

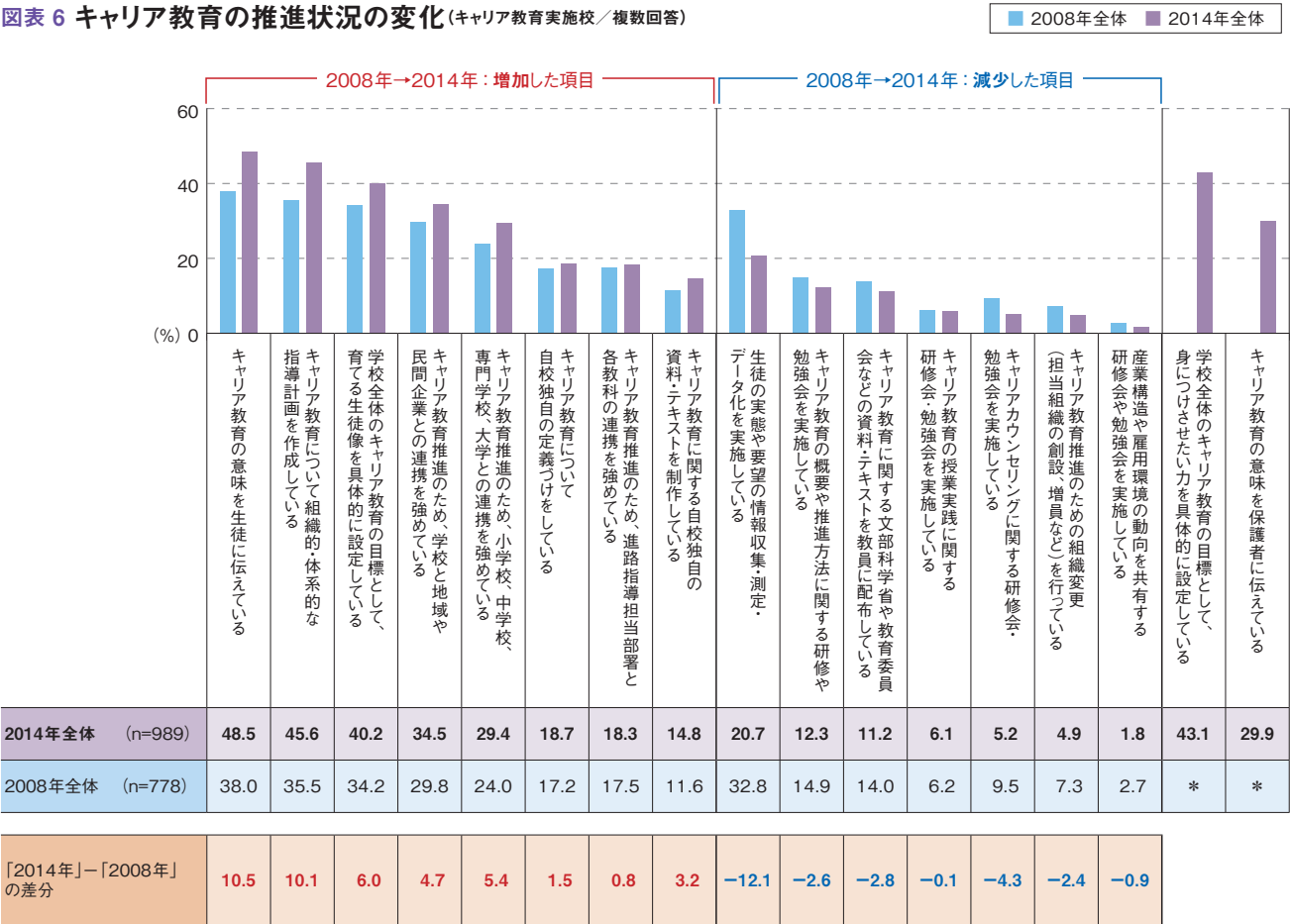
[*]:該当項目なし

のトップは、08年以降変わらず「総合的な学習の時間」80%。2位も同じく「LHR」64%だが前回より11ポイント減少。一方「教科の時間」29%は前回より6ポイント増え、増加が最も大きい。08～10年以降増加している項目が多く、日常の授業・部活から各種行事まで幅広くキャリア教育の機会と捉え、実践が広がってきている。

具体的な目標設定と学外連携がすすむ

キャリア教育の推進状況を08年と比較すると(図表6)、「実態や要望の情報収集・測定・データ化」「研修会や勉強会」などキャリア教育の導入にかかわる項目はいずれも減少。増加項目は、「キャリア教育の意味を生徒に伝えていく」「組織的・体系的な指導計画を作成」「育てる生徒像を具体的に設定」といった、具体的なアクションや学校全体での指導計画・目標の設定、「地域や民間企業」「小学校、中学校、専門学校、大学」との連携による外部との協働などだ。キャリア教育が校内外の連携、組織的な取り組みにより浸透・進展している状況が見えてくる。

図表 6 キャリア教育の推進状況の変化 (キャリア教育実施校／複数回答)



※増加した項目・減少した項目ごと、「2014年 全体」の降順 [＊]:該当項目なし

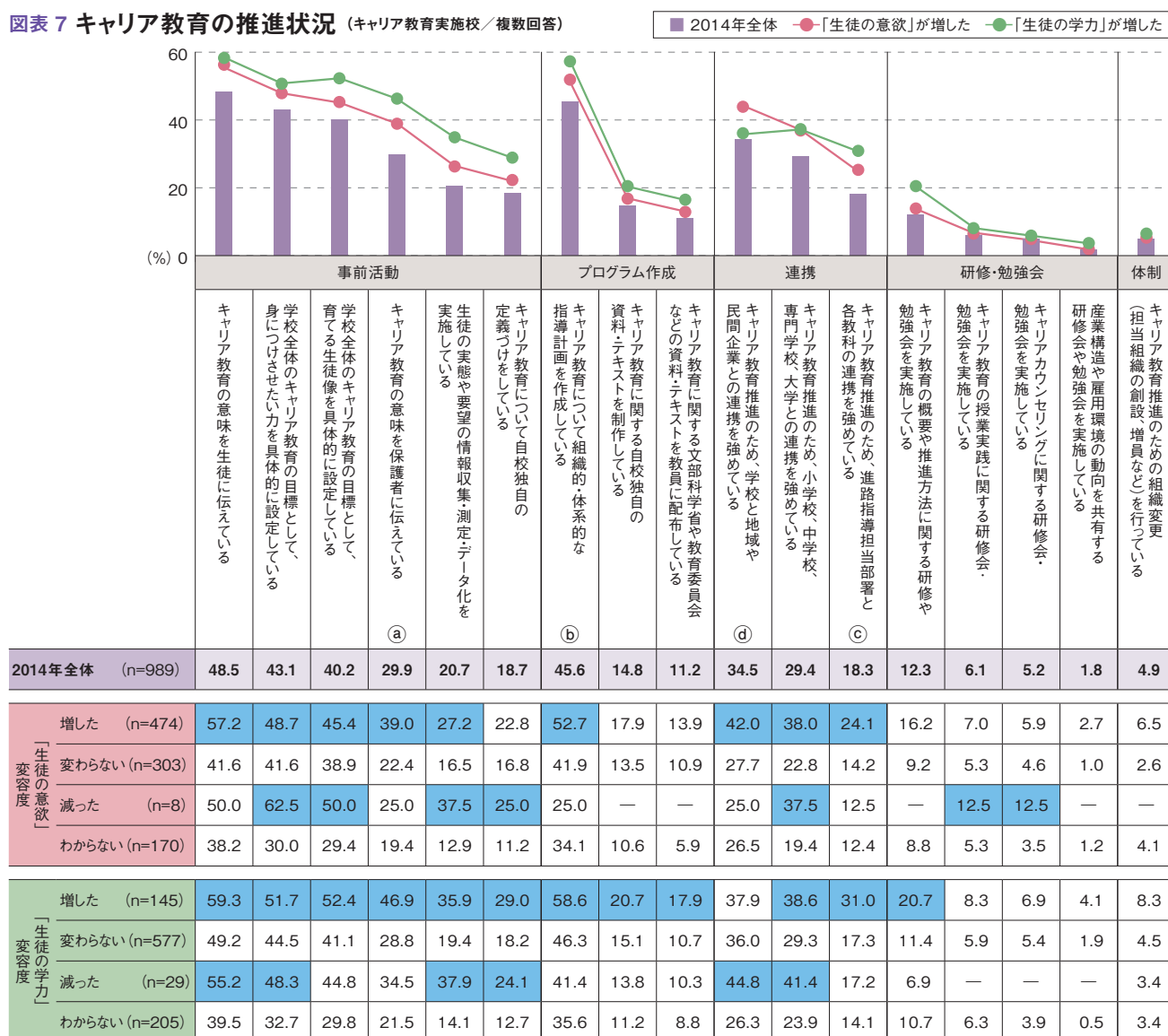
生徒の意欲・学力が増すのは キャリア教育が進んでいる学校

キャリア教育の推進と生徒の意欲・学力はどう関係するのか。前項で取り上げたキャリア教育推進状況について生徒の意欲・生徒の学力の変容度別に傾向を見た。図表7では特徴的に高い（全体を5ポイント以上上回る）項目を青色で表示した。生徒の意欲・生徒の学力が「増した」キャリア教育の実施校は共通して【事前活動】【プログラム作成】【連携】の取り組み項目が全体のスコアを上回っている。とりわけ、①「キャリア教育の意味を保護者に伝えている」、②「キャリア教育について組織的・体系的な指導計画を作成している」、③「キャリア教育推進のため、進路指導担当部署と各教科の連携を強めている」が「変わらない」「減った」学校より高い。

「意欲」が増した学校で特徴的なのは④「地域や民間企業との連携を強めている」であった。「学力」が増した学校は、推進の取り組み率が非常に高い傾向にあり、全体より10ポイント以上高い項目が7項目を占める。

キャリア教育の評価の
策定・運用はまだ1割強

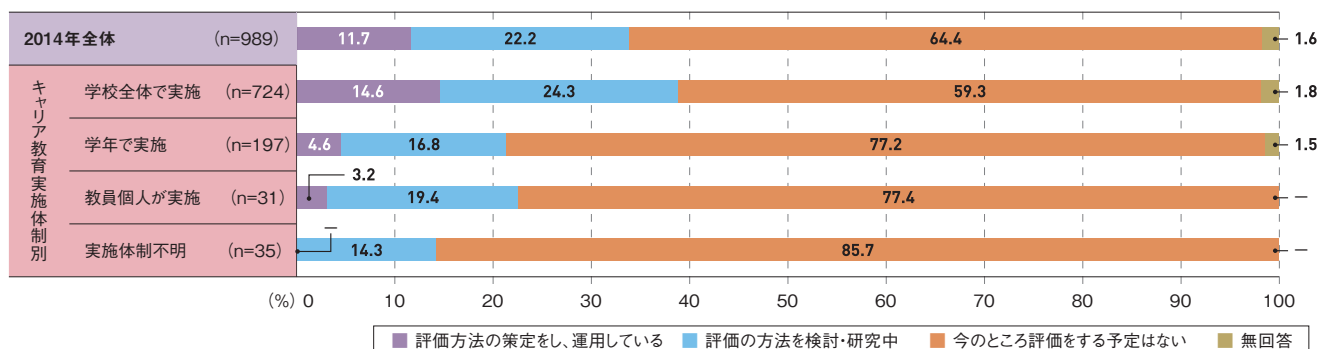
図表7 キャリア教育の推進状況（キャリア教育実施校／複数回答）



※カテゴリーごと「2014年 全体」の降順 ※「2014年 全体」より5ポイント以上高い数値を■色で表示

自校のキャリア教育の評価について実施状況をたずねた(図表8)。「評価方法の策定をし、運用している」は12%、「評価の方法を検討・研究中」22%まで合わせると、実施校の約3分の1がキャリア教育の評価に対し意欲的である。キャリア教育の実施体制別にみると、キャリア教育を学校全体で実施している高校で運用・検討率が最も高い。実施・検討中の評価方法の詳細をみると(フリーコメント)、生徒による自己チェックシートや、新手法としてルーブリックなどが具体的にあげられている。評価実施校では校内のみならず校外とも連携し、評価→検証→改善の仕組みを運用している例もみられる。一方、検討・研究中の高校、評価予定のない高校に、それぞれの理由をたずねた。検討・研究中の高校は、客観的指標による評価の必要性を認識しているが、客観評価の難しさや学校内のキャリア教育の進展度合いなどの事情が実施に至っていない要因でもありそうだ。また評価予定はない高校では、生徒の将来設計を含むキャリア教育は、評価に適さないという認識が強いようである。

図表8 キャリア教育の評価の実施状況(キャリア教育実施校/単一回答)



フリーコメント 2

キャリア教育の評価の運用状況・検討理由・非実施理由

■評価実施校:策定・運用している指標・方法

生徒の評価

- 年間を通しての自己評価と、インターンシップ等における受入先の評価など。(山形県/県立/普通科)
- 自己評価と、レポートやポスター作成といった成果物での評価を行っている。一部はコンテストに応募する形で外部評価もある。(岡山県/県立/普通科)
- Can-Doリストを作成し、アンケートを学生に行っている。達成度をはかっている。(秋田県/県立/普通科)
- 担任が取り組みの姿勢、プレゼンテーション、提出物(報告書、ノート等)で評価しています。(群馬県/県立/普通科)
- 1年は授業ごとにワークシートを提出させ、5段階で評価。2年、3年は点数化し、文章表現による評価。(大阪府/府立/総合学科)

プログラムの評価

- プロジェクトチームに各学年主任・教務部・生徒指導部・進路部の各部長が入っており、半期で中間評価、年度末に各項目や目標を5段階で評価し、次年度の課題やシラバスの修正などを行っている。現在は、生徒からの評価について検討中である。(福島県/県立/普通科)
- 生徒、保護者に対するアンケートを実施。学校評議員会を経て次年度の計画策定にフィードバックしている。(神奈川県/県立/普通科)
- 文科省のアンケートに協力し、その結果をもとにして次年度の方針を検討したり、毎年度末に教員アンケートを実施して、教員のアイデア等も吸収している。(山口県/県立/普通科)
- 生徒にはチェックシートを記入させ、活動前と後で変化があるかをキャリア担当の教諭がデータ化し、校内研修会や文部科学省で発表していた。(昨年までキャリア教育推進校に指定されていた)。(青森県/県立/専門高校)

■評価検討・研究中の学校:その理由

生徒の評価

- 生徒の成長度と取り組みとしてのチェックについて何らかの評価をしたいと考えている(ルーブリック、PDCAなど)。(東京都/私立/普通科)
- 現在は認定だけなので個別に評価をし、その中で意欲や目標を持たせられるようにしたい。(大阪府/私立/専門高校)
- 客観的な評価の仕方がわからない。分析の仕方が難しい。数値ではかることは、本来あまり意味がないのではないかと思う。(岩手県/県立/普通科)

プログラムの評価

- 評価がなければ目的もぼやけてしまい、キャリア教育の意義の理解が教員にも進まない。(愛知県/県立/普通科)
- 実施したものに対して、評価をしなければ改善されていかないので。また、評価基準がわかっていると、実践の計画もしやすいので。(神奈川県/私立/普通科)

■評価予定なしの学校:その理由

生徒の評価

- 授業や日々の家庭学習で、心を鍛え、基礎学力や受験に対する学力をつけることが大事なこと、大学や将来の仕事に役立つ。そのことの評価は難しいが、「キャリア教育」として評価すべきとは思えない。(富山県/県立/普通科)

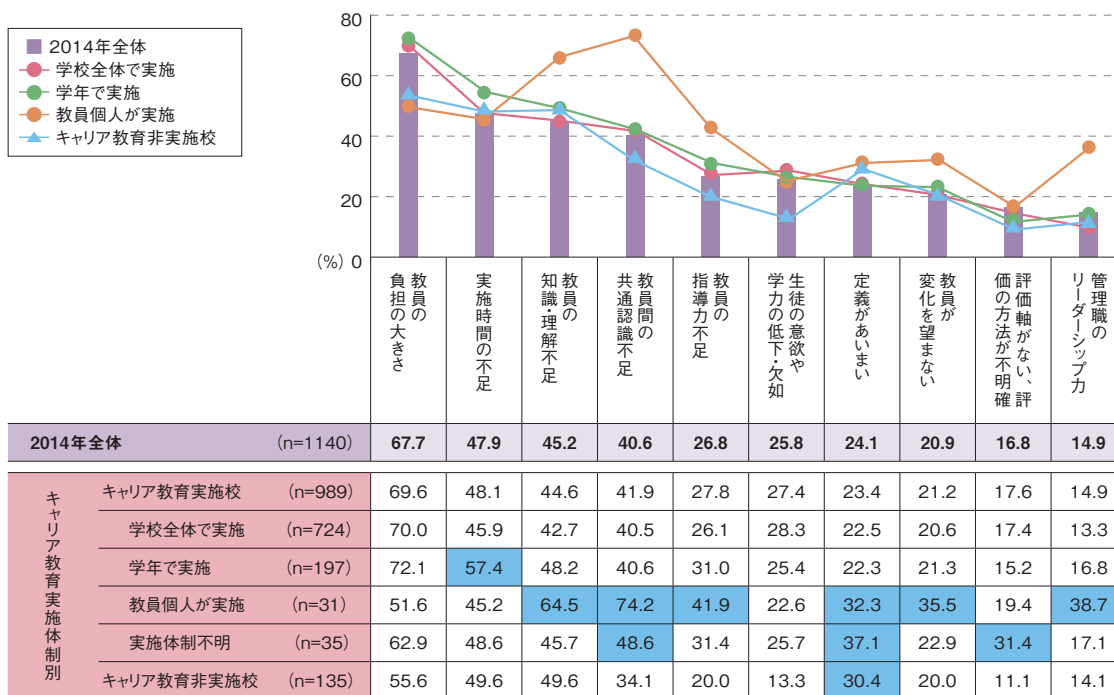
プログラムの評価

- 数値化することも大切だと考えますが評価はすべきではないと思います。キャリア教育の必要性を感じない先生方に示す資料として数字は説得力が出てきますが…評価対象となるとそれとりの考え方、教員側の方向性に偏り、本来の生徒がもつ自己形成につながらなくなるのでは?(埼玉県/私立/普通科)

キャリア教育の推進を阻む要因 一位は「教員の負担の大きさ」

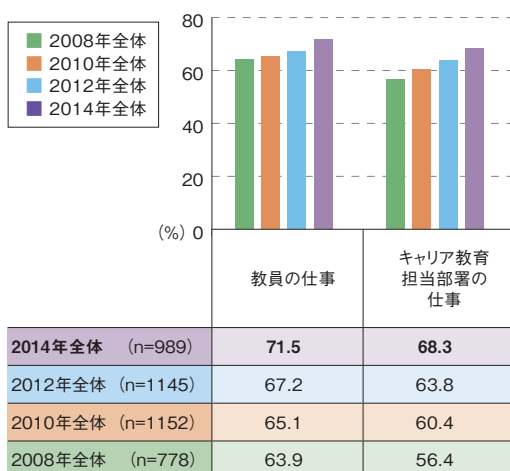
自校でキャリア教育を進めていくにあたり、難しくしている要因としてあてはまるものをすべて選んでもらった（図表9）。トップは「教員の負担の大きさ」68%。キャリア教育に対する考え方（12p）でも、「教員の負担は相当大きくなりそうだ」という不安が上位にあったが、「教員の負担」はキャリア教育推進の阻害要因としてもとらえられている。その理由をみると（フリーコメント3）、キャリア教育の業務増大、既存業務で精一杯という人手不足、学校単位では対応しきれないほど、範囲が広すぎるなどのコメントが多かった。以下、「実施時間の不足」48%、「教員の知識・理解不足」45%、「教員の共通認識不足」41%が続ぎ、実施の時間や体制準備の不足という課題認識が見えてくる。キャリア教育実施体制別にみると、組織的に取り組んでいる学校では「教員の負担の大きさ」が最多。一方、教

図表9 キャリア教育を進めるうえでの障害（全体／複数回答）

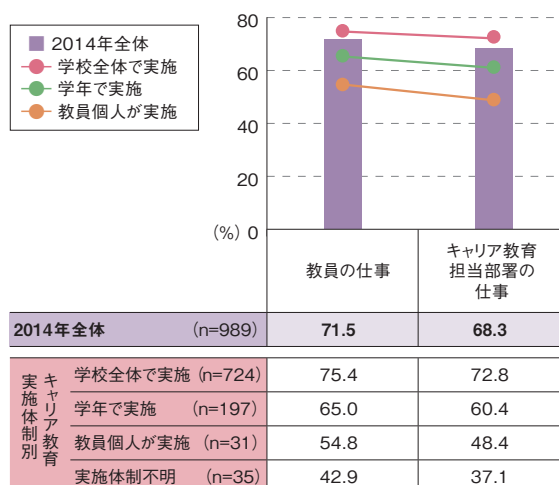


※「2014年 全体」の降順 ※「2014年 全体」より5ポイント以上高い数値を■色で表示

図表10 キャリア教育による仕事増加の推移
（キャリア教育実施校：「増した」回答／各単一回答）



図表11 キャリア教育実施体制別 仕事増加の割合
（キャリア教育実施校：「増した」回答／各単一回答）



員個人が実施の学校では、「教員間の共通認識不足」が最多であるほか、教員の「知識・理解不足」「指導力不足」「管理職のリーダーシップ力」「教員が変化を望まない」が高く、教職員間の理解・共通認識不足が組織的な取り組みを阻んでいると考えられているようだ。

「教員・担当部署の仕事量増加」と7割が回答

キャリア教育実施校では「教員の仕事」「キャリア教育担当部署の仕事」は08年以降増加し続けている（図表10）。さらに14年の状況を実施体制別にみると（図表11）、「教員」「キャリア担当部署」とも、学校全体で取り組む学校で仕事量が「増した」が特に高い。キャリア教育推進の阻害要因として「教員の負担」があげられたが、まさに現在、推進にあたり、教員・担当部署の業務負担が増大しているという実態がうかがえる。

キャリア教育の効果が実感され始めた今、生徒のために推進したい志や想いと、負担を背負い疲弊しつつある現実との狭間で現場にジレンマが生じている。さらなる進展のためには、この問題を組織的に解消することが必要不可欠となっている。

フリーコメント 3

キャリア教育を進めていくうえでの障害

■教員の負担の大きさ

キャリア教育実施校

- 通常の授業の準備、部活動、進路面談、放課後講習などに加えて、効果があるかどうかの評価軸がないものに力を入れる余裕がない。（北海道/私立/普通科）
- 計画にみあった実施のための詳細な準備や、事後検討のための時間が追いついていない。（広島県/県立/普通科）
- 個々の学校だけでは十分対応できない問題も多い。県レベルでの配慮もいただけるとありがたいと思う。仕事が増えているから人手も増やしてほしい。（愛知県/県立/専門高校）
- 今していることが、すでに負担が多い。学校がすべきこと、家庭や社会がすべきこと、またその協力などを決めないと、その多くが学校の範囲とされてしまう感がある。（愛知県/県立/普通科）

キャリア教育非実施校

- 現行の教育現場での多忙さの中で、さらに仕事が増えることで教員の負担が増えるので。（千葉県/私立/普通科）
- 教員数が不足している。1人で複数の公務分掌を兼任している。（沖縄県/県立/専門高校）

■実施時間の不足

キャリア教育実施校

- 実施には時間がかかりやせたいこと、やりたいことが多くカリキュラムではこれ以上深めていくのは厳しい。（東京都/私立/普通科）
- 通常授業での実施となると年間プログラムが計画しにくい点と、長期休暇での実施となると他の講習、合宿などの日程調整が難しい点。また、企業とのつながりについて、相談窓口の少なさが難しくしていると思われる。時間的な制約が多い点が大変難しくしている。（東京都/私立/普通科）
- 特定の時間のみの実施となっており、継続した取り組みが持続できない状況にあるため。（福島県/県立/総合学科）
- 限られた時間での実施は企業にとっても生徒にとっても中途半端になっている。（愛媛県/県立/専門高校：工業）

キャリア教育非実施校

- キャリア教育は非常に大切だと思う。しかしながら大学進学を目指すなかで十分な時間がとれないのが現実である。（京都府/私立/普通科）
- 教育課程をこなすだけで時間がいっぱい。“総合の期間”などを使い、「キャリア教育」を進める手もあるが…教員の負担が増えすぎる。そもそも今までなかったことを教えるためには、かなりの努力を要する。（兵庫県/県立/普通科）

■教員の知識・理解不足

キャリア教育実施校

- 教員が社会の変化に対応していない。学校はいつまでも同じことを教える場になってしまっている。社会変化と周囲のニーズを理解させないと、意識は変わらず、旧態依然となってしまうだろう。（岡山県/県立/普通科）
- 教育委員会レベルでも「職業（感）教育」のみと捉えている様子があり、それでは大多数の学校現場では、前向きな姿勢が出てこないと思う。（富山県/県立/普通科）
- 教員間のコミュニケーション不足。温度差が大きい。やれる教員がやればよいという形式が多い。無関心な教員もいる。（神奈川県/私立/普通科）
- 私は民間企業にいたので感じるが、学校を終わって学校の現場にいる先生方は、企業についてや産業についての認識が甘い。特に若ければ、とはいつても、もともと教員志望であれば教育現場に来るのが当然であるし、非常に難しい問題とは思ふ。（青森県/県立/普通科）

キャリア教育非実施校

- 現状で何が不足しているのか、何が必要なのか、それがキャリア教育というものとどうつながるのか、検討されていない。（東京都/私立/普通科）
- 教科指導との関連性が難しいのではないかと。（沖縄県/県立/普通科）

■教員間の共通認識不足

キャリア教育実施校

- ベテランの教員の古い考え方と、現在進めようとしているキャリア教育、指導方針との温度差。今後取り入れたいライフプランニング的な要素に対する不勉強など。（静岡県/私立/普通科）
- キャリア教育が特定の時間に限定して行われるものだと考える教員が多いように思われるため。（岡山県/県立/普通科）
- 毎年の人事異動の中で、マニュアルだけではわからないところを継承していくことが難しく感じるため。（島根県/県立/総合学科）

キャリア教育非実施校

- 教員一人ひとりが抱えている業務があまりに多岐にわたり多く、教員一人ひとりの価値観や考えが大なり小なり様々なので、共通認識を持つことが難しくなっている現状があるから。（大阪府/私立/普通科）
- 教員がそれぞれの問題意識を持って、様々な取り組みを行っているが、キャリア教育を行うことで、系統立った取り組みができることが理解されていない。（北海道/村立/その他）